

日時: 2011年10月19日(水)18:40~20:10

場所: 奥村記念館(奈良市春日野町4番地) 2階会議室

座長: 鶴谷(奥村組)

書記: 日下(住友電工)

出席者: 23名(順不同・敬称略)

角(日本建築総合試験所)、川口(船井電機)、萩原(大林組)、前田(富士火災)、柳父(元大阪ガス)、田中(グリコ栄養食品)、西濱(西濱防災ネット技術)、野原(京セラ)、藤村(竹中工務店)、上田(情報システム監査)、梅田(経営コンサル自営)、小友(富士通エフサス)、佐竹(アルファネットワーク)、佐原(鈴与)、西野(京セラコミュニケーションシステム)、能任(富士通エフサス)、速水(大阪ターミナルビル)、増穂(NECシステムテクノロジー)、鷺山(パナソニック)、北 館長、山下課長、鶴谷(以上3名、奥村組)、日下(住友電工)

内容: 概要以下のとおり。

1. 見学会 18:40~19:10

①挨拶(北 館長)

- ・経緯:元工事事務所だったが、2007年に創業100周年を記念し創業の地奈良に記念館として建替えた。
- ・特長は、次の4点。
 - 1)建物:古都奈良の町並みと調和した外観と最新の建築技術採用。
 - 2)くつろげるスペース:休憩所として無料開放。トイレや湯茶サービスもあり。
 - 3)会社の歴史と免震体験装置、免震模型の展示:免震体験は入館者の1割が経験。
 - 4)展望スペース:若草山、東大寺などの景色が望める。
- ・開館以来、累計53万人以上が来館。フランスなど海外のガイドブックでも紹介されている。

②館内見学

鶴谷氏のご案内で、地下の免震層、1階の展示ロビーと地震・免震体験装置を見せていただいた。

2. 勉強会 19:10~20:10

①「奥村組のBCPと東日本大震災を踏まえた見直しについて」(配付資料に基づき鶴谷氏説明)

要点以下とおり。

- ・BCPの前提は、建設業の社会的責任(災害対応と新規業務対応)を全うすること。
- ・重要業務(インフラ復旧工事など)遂行のため、安否確認を徹底。原則、社員から報告する。
- ・重要業務と目標時間は国交省関東地整の事業継続力認定審査を受けて見直している。
- ・被害推定の迅速化のため、BCP支援システム(被害推定+対応状況共有システム)を活用。
- ・拠点施設の防災力強化のため、本社ビルや社宅等の免震化、電気・水等インフラ停止対策、バックアップオフィスの準備、重要データのバックアップなど実施。
- ・主な対策:大阪・東京の2対策本部連携、異動時のBCP業務引継ぎ徹底、協力業者との連携など。
- ・震災を踏まえた見直しの要点は、安否報告ルールと津波発生時の対応の徹底、通信機器の備え確認など。

<質疑応答>主な項目は以下。

- Q 協力会社との連携はどうしているか。
A 各拠点のマニュアルに連絡方法等、要領を記載している。
- Q MCAデジタル無線は使っているか。
A 使っていない。衛星電話を装備し、毎回訓練している。
- Q バックアップオフィスはどこにあるか。
A 社宅、社員寮をあて、衛星電話を設置している。
- Q BCP方針はどのように策定したか。
A 本社内に策定チームを設けて案を作成し、経営委員会で承認を得た。
- Q 工事JVでの各社間の対応すり合わせはどうしているか。
A 現場に任せている。

Q 協力会社にある資機材が複数の建設会社との協定によりダブルカウントされている懸念について、東北地方でも資機材の取り合いなどで工事が止まっているケースがあるようだ。1社単独では対応しきれない問題であり、災害時の官民連携のテーマとなるのではないか。

A 今後の課題と考える。

②「奈良の文化財をどのように守るか」(配付資料に基づき鶴谷氏説明)

要点以下とおり。

- ・奈良県の文化財、特に国宝は彫刻で全国の55%、建物で30%を占める(空襲がなかった影響も)。
- ・奈良の文化財は、奈良公園や歴史的街並みと一体化した建物群や仏像・美術工芸品など考える。
- ・奈良の文化財を脅かす Disaster 要因として、地震、火災、台風、犯罪などがある。
- ・奈良は歴史的にも地震が多く、中央防災会議は奈良盆地東縁断層帯の地震で震度6強を予想している。
対策事例として奈良国立博物館の免震展示ケースを説明。
- ・火災対策としては、文化財が密集市街地にあるため、周辺地域を含む防火対策が重要。
- ・台風対策としては、風害・倒木・土砂崩れ等の防止が重要。
- ・犯罪対策としては、警察・教育委員会などの取り組みに加え、「文化財を大切に思う人々の気持ち」が何よりも大切と考えている。

以上